

知られざる建築業界の実態

～ それでも家づくりを任せられるか？ ～



さあ、あなたならどうする？

この無料レポートを読んで、理想の家を安く建ててください。

作者：建築サポート 高井弘一郎

目次

著作権について.....	3
▼ 建築業界のかくしておきたい現状! ムダな経費を負担している現実.....	4
▼ 建築材料の決定的な違い! 「知らなかった」では済まされない! 「化学建材」の危険性は.....	6
安い断熱材で大失敗! その素材、本当に大丈夫か?	7
▼ 今の時代、耐震構造は欠かせない条件! 30年後を見据えて建てる重要性	8
家を建てるなら、最低限知っておきたい “常識” とは?	9
省エネも踏まえた家づくりが大切.....	10
▼ 業者選びが家づくりの成功と失敗の分かれ道! 建てた家が欠陥住宅だった! 安すぎる業者の危険性	11
▼ その業者、本当に大丈夫? うまい言葉に惑わされない コミュニケーションとは	12
大切な家づくりだからこそ、信頼できる業者を選択しよう	14
▼ 予算オーバーしない資金計画を立てるために! 家づくりの適正価格とは? 上手な費用の使い分け方	14
建築サポートの紹介.....	18

著作権について

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。 下記の点にご注意いただきご利用ください。

このレポートの著作権は高井に帰属します。 著作権者の許可なく、このレポートの全部、又は一部を、いかなる手段においても 複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。
このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

建築業界のかくしておきたい現状！

これからご紹介する内容は脅かしでも嘘でもありません！
大金を払い家を造ろうとしているお客様に対して、本来、建築業者が取って然るべき行動と内容を淡々と書きました。

いい家を安く建てる方法は沢山あります。ノウハウも知る事ができます。
ただ、それを知ったところで素人のあなたにはどうすることもできません。

唯一の方法はいい家を安く建てようとしている建築のプロを味方につけて家づくりをすること。

これだけしかないのです！

時代遅れの「建築業界」と建て主さんのことなど頭にならない「建築業者」に家づくりを任せなければならない事実。

もう一度言います。

これからご紹介する内容全てが建築業界の知られざる実態です！

あなたならどうしますか？



ムダな経費を負担している現実

他の業界に比べ、時代遅れといわれている建築業界。最新情報の収集に無関心な多くの建築業者は、「自然素材で高断熱の健康住宅を安く建てる」ことの重要性を全くわかっていません。

ヒートショックやアレルギー、カビ、ダニ、熱中症、シックハウスを発症させる危険のある化学建材や、

断熱性能が低く値段が安い建築材料を平気で使っているため、結露が発生したり、子どもや高齢者の方に大きな健康被害が及んだりしている事実があります。



しかも、そのような安い建材を使いながらも価格は自社の都合で高く設定。建築費の中には、モデルハウスや広告宣伝費、多くの営業マンへの報酬などを含む多額の経費と利益が含まれていますが、そのことをご存じない建て主さんは、生涯にわたり、高いローンを払い続けることになります。

しかし、多くの建築業者はあなたが一生をかけて払い続ける住宅ローンの返済には全く興味を持ちません。

もちろん、あなたが希望する建てたい家やあなたが無理なく出せる建築費用にも興味を示さないでしょう。

住宅ローン破綻しようが、家族離散しようが、お構いなしなのです。

このような建築業者を、あなたは許すことができますか？

実際、このような建築会社が多いため、いろいろな悲劇が起きています。無理な住宅ローンを組んで、休日も住宅ローン返済のために働き、毎月の支払いに追われる人生を送っている人が多数存在しています。

その結果、家族との団らんの時間が持てなくなり、家族離散という残念な結果になる人も大勢いるのです。

にもかかわらず、

多くの建築会社は、危険性が高い家づくりであることを承知のうえで、価値がない安い建材を多用し、建て主さんの支払能力をはるかに超える高い価格で売っています。

このような真実を知っても、あなたはこんな詐欺まがいの業者に依頼をするのですか？ 今ならまだ間に合います！

あなたの大切な家づくりのために、そしてあなたの大切な家族のために、どうか最後までご覧ください。

建築材料の決定的な違い！

「知らなかった」では済まされない！「化学建材」の危険性は？

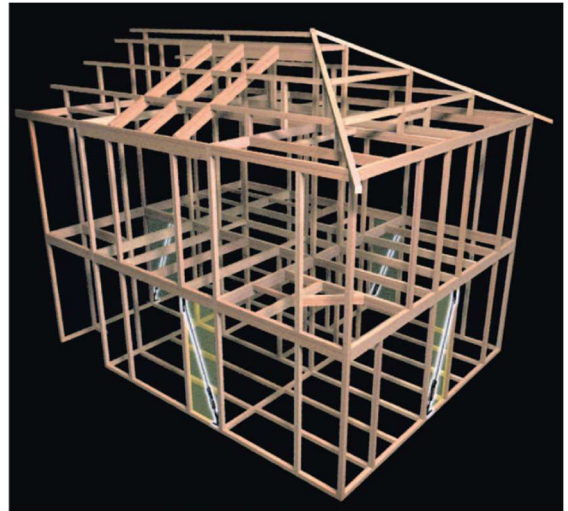
冬寒い朝、窓にビッシリと結露がついていませんか？

この結露は、窓廻りのビニールクロスの壁や、化学建材の床、カーテンなどにカビを発生させます。

カビが発生したら、もちろんダニもいると思ってください。

もし、あなたの家に、小さな赤ちゃんや幼いお子さんがいらっしゃるなら、慎重な家づくりが必要です。

なぜなら、赤ちゃんはハイハイしながら化学建材のカビた床をなめたり、カビやダニが付いたカーテンや化学建材の床に落ちた食べ物を口にしたりし、健康を害することがあるからです。



これは、脅かしではありません。

このような住環境の中では、あなたの赤ちゃんや幼いお子さんの健康に悪影響を与える危険性が非常に高くなる事実をお伝えしているのです。

また、それだけではありません

大人も化学建材でつくられた家に住んでいれば、ストレスになったりガンが発症したりする危険性が高まるのです。

これらは、人の命にかかわる大切なこと。

安易な選択で後悔しないよう、十分に考えたうえで結論を出しましょう。

安い断熱材で大失敗！その素材、本当に大丈夫か？

寒すぎる洗面脱衣所やトイレで、高齢者の方がヒートショックを起こさないように、断熱性能が高い樹脂サッシや隙間が出ない断熱材を選んでいますか？

多くの建築業者は、単に安いからと言う理由だけでグラスウールという断熱材を使っています。



グラスウール

このスカスカの断熱材を天井裏にのせただけ、壁の中に無造作に押し込んだだけの家で、冬は暖かく夏は涼しく過ごせるでしょうか。

そんなはずはありません。

安物の断熱材を使った家の実態は、

冬は凍てつくように寒く、夏は蒸しかえるように暑い。

そんな空間となります。

断熱材は、あとで気づいても取り替えることができません。

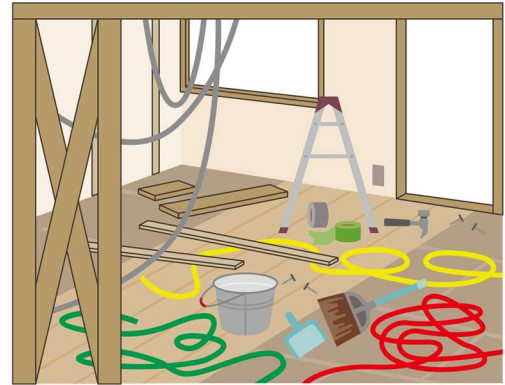
断熱工事、断熱材については、建てる前にきちんと考えるべきことなのです。

今の時代、耐震構造は欠かせない条件！30年先を見据えて建てる重要性

毎年、想像を超えた破壊力を持つ地震や台風、竜巻などの自然災害により、倒壊した家の下敷きになって亡くなる方が大勢います。

その家づくりは、巨大台風の風速60～70メートルでも倒壊しませんか。

屋根が飛ばないように、壁が剥がれ落ちないように、そして柱が傾かないようになっていますか。



「まさか自分のところにはそんな災害起きないだろう...」

「地震が来ても何とかするわ」

そんな風に考えているのだとしたら、

将来、あなたの家族が命の危険にさらされるかもしれません。家族の命を守るのはあなたです！

これらの自然災害に備えるならば、大地震の震度7以上で倒壊しない家をつくらなければ、安心して住み続けることはできないでしょう。

住宅は30年、いや50年以上も長く暮らすものです。アフターメンテナンスの費用のことも踏まえ、

万が一不具合が起こった場合にもきちんと対応できる建築業者に依頼すること。

これは、家族の命を守るために、決していい加減にしてはいけない重要なことなのです。

家を建てるなら、最低限知っておきたい“常識”とは？

あなたは、次の10個の質問に答えられますか？

- ① 本物の無垢の床板30mmと合板フローリング15mmの床、足ざわりが気持ちいいのはどっち？
- ② ビニールクロスを張った家と漆喰を塗った家の空気の質が違うことは知っていますか？
- ③ 断熱材の種類を知っていますか？
- ④ 省エネ住宅に使われている断熱材は何ですか？
- ⑤ 断熱材をどのように施工したらいいのか分かりますか？断熱材が隙間だらけという事は？
- ⑥ アルミサッシと樹脂サッシの性能の違いが分かりますか？ガラスではなくサッシ枠も大事？
- ⑦ 夏涼しく冬暖かい家にするには何が一番大事か分かりますか？
壁や床、天井にどのような建材を使えば
- ⑧ 室内の湿気の調湿が可能かわかりますか？
窓の結露を防ぐにはアルミサッシがいいですか？それとも樹脂サッシですか？
- ⑨ 赤ちゃんにも高齢の人にも優しい床板は合板の固い床ですか？それともやわらかい杉の床ですか？
脱衣室、浴室やトイレでヒートショックで
- ⑩ 人が倒れないようにするためにはどのような建材を使うか知っていますか？

さて、いくつ答えられましたか？ もし、ほとんど答えられなかったのだとしたら、家を建てた後、**あなたはきっと後悔します。**

たとえば、壁の中の断熱材にグラスウールなどの繊維系断熱材を使う場合は湿気を壁の中に入れないビニールクロスがいいかもしれません。しかし、それでもビニールクロスと塗壁では見た目が全然違いますし、空気の質も違います。

私なら、塗壁や無垢の木をおすすめします。価格はもちろん化学建材の家より自然素材の家の方が高くなりますが、それだけの価値があるのは事実。

ただ、塗壁や無垢の木は自然素材なのでクラックや反りなどが出てきますが、自然素材の味と見ることもできます。

素材のメリットを優先するのか、価格の安さを取るのか。
それを決めるのはあなた次第。

建てた後に後悔したくないのなら、上記10個の質問全てに答えられるよう、準備しておきましょう。

省エネも踏まえた家づくりが大切



原発が全て動いていない今、電気代が上がってくることを考えると、省エネ対策も必要です。

安いエアコンを選ぶことも大切ですが、省エネ効率が高いエアコンを選ぶことが重要です。

でも、これだけで省エネ対策として十分だと思いますか？

答えは「No!」です。

できるだけ光熱費を減らすためには、高断熱の省エネ住宅でなければなりません。

費用がかからないシンプルな高断熱の工法もあれば、複雑で費用も高い特別な工法もありますので、理解を深め、ご自身でしっかり選択することが必要でしょう。

業者選びが家づくりの成功と失敗の分かれ道！

建てた家が欠陥住宅だった！安すぎる業者の危険性

「安い予算で質のよい家を建てますよ！」

そんなうまい話があると思いますか？ 担当者の言葉を鵜呑みにし、その

具体的な素材や工法について知らずに業者に任せてしまうと、手抜きや粗悪素材による欠陥住宅という危険性も生まれてきます。

安くした分のしわ寄せが、下請けである大工さんに及ぶと、最悪の場合、手抜き施工という可能性も否定できなくなってしまうからです。実際、ネットを見ると大手建築業者も小さな大工の工務店も、規模に関係なく手抜き欠陥住宅を建てている事実が見つかります。

また、粗悪な素材と雑な施工によりひどい結露被害が生じ、屋根裏や床下、壁の中が腐ってしまうという事態が起こってしまうのです。

「安くて質のいい家」そんなうまい話はありません！

では、多くの建築費を掛ければいいのか？ というのも少し違います。

なぜなら、建築費用には、何の根拠もない多額の利益が上乗せされているからです。そんなことのために、住宅ローンを無理したのでは元も子もあません。



問題のない施工や工事のため、そして無理のないローン計画には、適正価格で建てることが大切なのです。

その業者、本当に大丈夫？うまい言葉に惑わされないコミュニケーションとは

建築業者には考えるべきことがこんなにあるのに・・・。

化学建材、合板フローリング、ビニールクロスなど、品質や耐久性が悪く、安い建材を使い過ぎている業者が多すぎます。

でも、多くの建築業者や営業マンはこう言うでしょう。

『コストパフォーマンスの良いアルミサッシで充分ですよ！』

『窓や壁の中の結露なんてたいした事ないですよ。』

『ちゃんと地震や台風の災害にも対応できるようになっていますよ。建築基準法をちゃんとクリアしていますので安全です！』

『高断熱だから夏は涼しく冬は暖かいですよ。ヒートショックなんて昔のことです！』

『心配性ですね？大地震や大きな台風は頻繁に来ないので問題ありません！』

一見まともな事を言っているようですが、私からすると説明が全然足りていません。

アルミサッシは結露が湧きやすく、寒い朝などは掃除が大変ですし、壁の中にも結露が湧いて、カビ・ダニの原因にもなりやすくなります。

建築基準法は実は基準が等級1から3までの3段階あり、

一番低い【耐震等級1】でも建築基準はクリアと言えますが、実際の所は、大きめの地震などで、家の損害が大きく出やすくなります。

これは高断熱にも当てはまる事で、素材によってピンキリであり、高断熱材が全てヒートショックを防いでくれるわけではありません。

これが建築業者の実態なのです！

その証拠に、経費や利益を極限まで削って、あなたのために良い材料を使い、いい家にしようと思うような覚悟のある建築業者はほぼいません。

多くの建築会社は家づくりのプロですから、良い建材とは何か？

どのような材料が一番身体に良いのか？ どうしたら健康に、そして快適に暮らせるのか？ 耐久性がいいのは本物の建材で、耐久性が悪いのは化学建材やビニールクロスであるという事実など....。

本当はこれらのことは、ちゃんと知っています！

でも、言わないんです！

自社のことしか考えていないので、多くの経費や利益を得るために、安い化学建材を使った安い家を、価値があるように見せて高く売ろうとするのです。



場合によっては、そこに住む人の命や健康に大きく関係するにも関わらず、安い化学建材を使って自社利益の最大化を狙い、材料費や施工費の原価を安くあげているのです。

このように、建築業者は「良い事は言うが、悪い事はわざわざ言わない」のが普通という事を肝に銘じ、話を聞くようにして下さい。
これだけでも業者の言葉を鵜呑みにせず済むでしょう。

疑問点はあなたの方から積極的に質問すべき！

逆に言うと、良い所だけではなく、悪い所も伝えてくれる営業マンは信用出来る人といえるかもしれませんね。

大切な家づくりだからこそ、信頼できる業者を選択しよう

あなたのことや予算のこと、あなたが建てたい家のことなど全く考えずに、無神経な家づくりをしている建築業者がたくさんいる事実！

この実態を知ってください。

確かに他の建築業者の中にはいい家を建てる建築業者がいると思いますが、彼らは、「ムダな費用をかけずにいい家を安く建てる」そして「建て主さんの予算内で希望の家を建てる」という事に重点をおいていないところがあります。

建築業者主導でいい家を高くつくる時代は終わりました。

今は、「あなたの身の丈に合った予算内で、自然素材の健康に暮らせる家を建てます」と言えなければいけないのです。

「いい家を無駄な費用を掛けないで建てる方法をあなたに伝え、それを実行します」と言わなければならないのです。



私が今、ここで伝えたことについて、じっくりとお考えいただいた上で、業者選びをしてください

予算オーバーしない資金計画を立てるために！

家づくりの適正価格とは？上手な費用の使い分け方

では、そもそも適正価格がいくらなのかご存じですか。

業者が提出する見積り額には、**300万円～1000万円もの**建築業者の経費と利益が上乗せされているという事実があります。

あなたは、こんな大金を、笑って払うことができますか。

希望する自然素材の健康住宅を、無理しない価格で建てたほうがよいに決まっていますよね。もっと、材料のグレードアップや安全を図るための構造計算に費用を使うべきではないでしょうか。

適正価格を判断するためにも、

見積り段階で、どんな素材をどんなふうにするのか、そしてそれらについて、見積りに明確に金額が記載されていることが大切でしょう。

ここでもう少し資金計画のことをお伝えしましょう。

家づくりで大事な事は、たくさんあります。

暮らしやすい間取りや便利な設備機器、カラダにいい建築材料断熱性能を高める為の素材他にもいっぱいありますよね。

確かにこれを考える事も、失敗しない家づくりには大事なことです。

しかし、

実は、一番に考えなければならないことがあります。何だと思えますか？

そう！あなたが言われる通り、家はとても高額な商品です。私は、商品と言う言葉は好きじゃありませんが、とりあえずここでは商品と言いましょう。

家はどうしても高額になる為、最初から予算ありきで考える必要があるのです。

間取りや、デザインを考える前に予算をまず考えなければなりません。

住宅会社や工務店も予算の事はお客さんに、なかなか聞きにくいものですから後回しになる場合が多いのです。

とりあえず、予算は後回しにして、プランやデザインを先に考えて、打ち合わせを進めていって、おー良いプランが出来たと喜んでいざ見積りしてみるととても住宅ローンを借りて、払える金額ではなかった

と言う話はいくらでもあります。

何ヶ月もかけて打ち合わせをしてきたのに全くの無駄になってしまったのです。

そうならないためにも、プランを考える前か同時に、予算もしっかり把握しておく必要があります。



ここで一つ注意する事があります。

多くの住宅会社では家の価格を本体価格と別途諸費用（付帯工事）とに分けて表示しています。

広告などに掲載されている金額はほとんど本体価格ですので、それだけで家が建つと考えていたら、諸費用の分が不足したという事例も珍しくありません。

家が完成した後で追加の請求書が送られてくる場合もあります。

その結果予算が足りないということになるのです。

そうならないためにはきちんとした見積もり漏れがない資金計画書を作る必要があります。

ところで資金計画の内訳はどうなっているのでしょうか。

本体価格とは、敷地やお客さがどのような条件でも変わらないもの

例えば、基礎工事、大工工事、屋根工事など家づくりの基礎となる工事です。別

途諸経費（付帯工事）とは、お客さんの条件や要望で変わるもの、例えば、外回りの外溝工事、駐車場のカーポート、敷地の大きさによって違う外部給排水工事、引越し費用、登記費用、住宅ローン経費、地鎮祭費用、エアコン費用、地盤補強工事費、解体工事費などが諸費用に当たります。

一般的には本体価格とは別に、**100万円から300万円必要**です。

庭などを豪華に造れば**500万円**程度掛かる場合もあります。

ですから、家を建てて住めるようになるには、全部でいくら掛かるのかを知らなければいけません。



決して本体価格だけでは住めないのですから、総費用がいくら掛かるということを知った上で、プランやデザインを考えて家づくりを進めてください。

そして見積もり漏れがないことが完成後に追加請求されないための資金計画です。

あなたの収入に応じた、家づくりの予算

土地代 ➡ 諸費用 ➡ 別途工事費 ➡ 建物建築費

の順序で予算配分するのが予算オーバーしないコツです。

この資金計画は自分でもある程度出来ると思いますので、資金計画をきっちりやり、楽しい家づくりをしてくださいね。



資金計画			予算配分例 総予算2300万円のケース		
建物本体費用	金額(税込)	備考	土地・諸費用	金額(税込)	備考
1 建物本体工事費	6,500,000	坪単価21・6万円	16 土地代	5,000,000	売主へ
2 建物本体材料費	7,500,000	価格表金額ー(工事費+3~14の費用)	17 土地仲介手数料	210,000	不動産業者へ
3 システムキッチン(255IH)	420,000	定価の半額	18 抵当権設定登記費用	60,000	司法書士
4 ユニットバス(1616)	290,000	定価の半額	19 上下水道引込費用	0	宅内配管済
5 トイレ(便器2セット)	180,000	定価の半額	20 浄化槽設置費用	0	下水道完備
6 洗面台(W750)	50,000	定価の半額	21 上下水道加入金各種	150,000	行政機関へ
7 エアコン(2台)	140,000	定価の半額	22 解体費用	0	既存建物
8 給湯器(エコキュート)	290,000	定価の半額	23 地盤改良費用	0	地盤調査後
9 照明器具	160,000	定価の半額	24 住宅ローン関係経費	650,000	保証料等
10 カーテン	150,000	価格固定	25 地鎮祭・棟上げ費用	30,000	行う場合
11 太陽光発電システム	0	1KW当たり35万円	26 保存・表示登記費用	150,000	司法書士へ
12 建築確認申請関係	350,000	価格固定	27 外構・造成工事費用	0	予算
13 設計・図面作成費用	550,000	価格固定	28 引っ越し費用	0	業者引っ越し
14 手作家具・その他費用	150,000	予算	29 その他諸費用	100,000	予備費
15 建物本体費用合計	16,730,000	価格表の金額を転記	30 土地代・諸費用合計	6,350,000	建物外費用

建築サポートの家づくりコンセプト

建築サポートは工務店ではありません。昔は工務店でしたが現在は設計・施工・材料仕入れの3業務をサポートする建築事務所です。

設計・施工・材料仕入れの3業務をサポートすることでいい材料を使ってもいい設備機器等を使っても他社さんより家が安く建ちます。

相場の価格より300万円から最大1000万円安く建築可能です。

設計・施工・材料仕入れの3業務をサポートすると言ってもなかなか分かりにくいと思いますが、設計のサポートは設計事務所と同じであなたが希望する家の間取りや設計図をつくります。

施工のサポートは安く工事をしてくれる工務店や職人さんを探し選び紹介し、施工内容の打ち合わせや指示などを施主さんに代わり行います。

材料仕入れのサポートは材料や設備機器を施主さんの代理で安く買い現場まで搬入します。

もちろん施主さんの予算を最初に聞き、その予算の中で設計・施工・材料仕入れのサポートを確実にを行いますので予算オーバーすることはありません。

そういう意味では予算のコストコントロール、予算管理が主な業務になるのかも知れないですね。こうすることで、ムダな費用や過剰な建築業者の経費や利益を省く事ができますし、施主さんのご希望の家がご希望の予算の中で出来るという訳です。

また、予算が十分にある人や有名ハウスメーカーや特定の建築会社で絶対建てたいと思っている人に対して建築サポートはお役にたちません。

建築会社の名前とか会社の規模、ブランドにはこだわりのない家を予算内で建てたい人はそのような建築会社でお建てください。

いい家を予算内で建てたい。

- ✓ 身の丈に合った家づくりをしたい。
- ✓ 自然素材の高断熱の家を建てたい。
- ✓ 夏涼しく冬暖かい健康住宅に暮らしたい。✓
- 無垢の木や漆喰など塗り壁の家を建てたい。✓
- 地震や台風にも強い家を建てたい。
- ✓ 無駄な費用を省きその分を家に掛けたい。

良い家を予算内で安く夢のマイホームを実現する家づくりサポート。

建築サポートの仕事というのは少ないコストでもいい家づくりができるよう
今までの40数年の経験や智慧、知識、人脈をフル活用し考え提案する仕事
です。

これから家を建てる人でまだまだ時間がある人はお考えください。

たとえば、

- 耐久性が低く張物建材、化学建材を多用した家に一生住むこと。
- 化学建材を多用した普通の家は25年、30年で建て替え若しくは
大型のリフォームが必要になること。
- 断熱性能が低く結露やカビに悩まされる冬が毎年来ること
- 冷暖房光熱費が高く寒い家でヒートショックの危険もある家になること。
- 住宅性能や品質がそれほどでもないのに建築費だけは高いこと
- 材料費や施工費以外の建築会社のムダな経費利益まで負担していること。
- 建築会社はあなたのことにはほとんど真剣に興味を示さず自社の利益を
最大化することだけを考えていること。
- 建築会社の勧めで身の丈以上のムリな住宅ローンを組んだため必死で
返済しなければならなくなったこと。

これらのことをあなたはどう考えますか。
今あなたが考えていることを私に教えてください。

家づくりの企画開発設計サポート

建築サポート 代表 高井弘一郎

最後に

よく建築サポートのような家づくりをしている
会社を紹介してくださいというメールをいただきます。
建築サポートのような家づくりをしているところは残念ながらありません。

本当は設計事務所が私のような考え方で家づくりができればいいのでしょう
があくまで設計事務所は設計監理が仕事で家づくりの企画から設計施工まで
を責任をもってやってくれる設計事務所はないようです。

さて、現在の家づくりは建築業者が利益を出すことに一生懸命で
施主さんのことはあまり頭にありません。それは不動産業界も同じだと思います。
多くの建築業界、不動産業界は生き残りをかけて施主さんどころでは
ないのです。

建築業者が儲ければ施主さんが損をする。施主さんが儲ければ建築業者が損
をする。

そのような家づくりが現在の家づくりです。
ここを変えない限り施主さんは価格だけが低い価値のない家を手に入れるこ
とになるのです。

施主さんも建築業者も家づくりにかかわる人すべてが満足する
納得する家づくり。

これからの家づくりはこうあるべきです。施主さんも建築業者も満足する家
づくり。これを実現するには、いい家をやすく建てることです。

特に建築業者としてはいい家をやすく建てることで適正な利益を確保する。
これを考えないといけません。

安く建てても儲かること。これができていないのです。

なぜできないのか？ それは経費のかけすぎです。
営業マンの人件費やチラシ広告の販促費のかけすぎです。
なぜこのように多大な経費をかけて家づくりをやるのか？
それは今の建築会社は利益第一主義だからです。

家づくりを商売でやってはいけない。
家づくりで利益をたくさん出すことはよくない。
家づくりは大企業がやるものではない。
家づくりは職人たちがコツコツとやるもの。

このようなことを真剣に考えないからです。

利益を出すこと。

会社を大きくすること。

を考えない家づくりの専門家が増えれば家づくりはもっとよくなります。

いい家をやすく建てたい。

これだけを真剣に考える専門家が増えればもっといい家が安くなります。

しかし、今の社会では私のような考え方が

変人扱いで、営利企業の家づくりが常識だと思われているのです。

今の家づくりをどぎゃんかせんばいかん。佐賀の方言です（笑）

どうにかしないといけないと思っている建築業者が残念ながらいないというのが現状です。

ただ、そのような現状でもできるだけいい家をやすく建てる方法がありますから、ネットなどで正しい「情報収集」してください。

私が考える建築費の適正価格とは？

材料費、施工費の最安値の原価＋建築会社の経費利益20%から22%です。

大手ハウスメーカーなどは40%前後の経費利益です。

職務経歴

昭和48年 大工職人のもとへ住み込み弟子入り

昭和54年 弟子離れ

昭和55年 大工職人として一般工務店を転々として腕を磨く

昭和61年 2級建築士取得

昭和65年 ハウスメーカー、大手建築会社の下請け、手間請けを始める

平成10年 弘友建設開業 建設業許可取得 大手建築会社の協力会社になる

平成16年 下請け、手間請けをやめる

平成17年 組織変更 有限会社建築サポート設立

平成20年 設計事務所 建築サポート設計室開業

平成23年 設計、施工、材料仕入れの分離発注施工体制で家づくりを始める。

平成24年 「いい家を安く建てる」をコンセプトに実践的建築サポートによる家づくりを始める。

平成25年 全国展開 適正見積による家づくりコンサル、メールサポートを始める。

平成26年家づくりの企画・設計・施工の実践的なサポートに特化する。